平成１７年度　一橋大学法科大学院入学者選抜試験　法学論文試験問題

刑　法

・解答上の注意

1．問題文は１枚、解答用紙は２枚（各問について１枚）、下書き用紙は１枚です。
2．解答用紙には、一橋大学の受験番号を記入し、氏名は記入しないでください。
3．解答用紙は、第１問用と、第２問用とが異なります。それぞれ正しい用紙に解答してください。
4．解答は横書きにして、１問につき１枚の解答用紙に収めてください。解答用紙の追加、交換はしません。
5．問題の内容についての質問には、応じません。
6．貸与した六法に、書き込みをしてはいけません。
7．試験終了後、問題文と下書き用紙は、持ち帰ってください。

第１問

暴力団の幹部組員甲は、ほかの組員らと共同してＡを殺害するつもりであったが、事前に、甲の弟分である別の組員乙に対し、「自分が警察に捕まったときには、乙が真犯人だと名乗り出て、自分が釈放されるようにしてほしい」と頼んだところ、乙はこれを承諾した。その後甲は、計画どおりＡを殺害し、その事件の被疑者として逮捕され、警察署に留置された。

１）乙は、甲に言われたとおり、警察署に出頭して、真犯人は自分であると申し出たが、乙が犯人であることをうかがわせるような証拠がなかったので、警察は乙の申し出にはとりあわず、甲は釈放されなかった。

甲と乙の罪責を論じなさい。

２）他方、捜査当局は、同じ事件の共犯者としてＢを指名手配していたが、丙は、Ｂが事件当日自分と行動を共にしており無実であることを知っていたので、Ｂに隠れ家を提供してかくまった。

丙の罪責を論じなさい。

第２問

「刑法において、人は自らが行なった行為について責任を問われるのであり、他人が行なったことについて責任を問われるべきではない。」という命題について、次の問いに答えなさい。

１）この命題は正しいか、それとも誤っているか。理由と結論を述べなさい。

２）この命題を正しいとした者は、それが刑法の解釈、適用においてどのように貫徹されるべきか、誤っているとした者は、どのような場面でその誤りが明らかとなるか、いずれも問題となるいくつかの具体的な場面を挙げて、示しなさい。